総合的な学習の時間（わかたけの時間）

子どもが「学びをつなぐ」総合的な学習の時間

総合的な学習の時間研究班

昨年度までの研究の概要

総合的な学習の時間研究班では、「学びをつなぐ」姿を「各教科等で培った力を場面に応じて発揮させながら、探究課題の解決を行っている姿」と捉えている。この姿を具現化するために、探究的な学習や教科等横断的な学習の充実を図ることが大切であると考え、「『探究する』おもしろさを実感する単元構成の在り方」と「『考えるための技法』を生かした学習活動の在り方」の２つを研究の柱とし、一昨年度から研究を進めてきた。

「『探究する』おもしろさを実感する単元構成の在り方」について

１年次に作成した総合的な学習の時間の年間指導計画を基に、１・２年次ともに、各学年の子どもの実態を踏まえた単元を構成し、授業の実践を行ってきた。コロナ禍であるため、年間指導計画どおりに進めることができなかった側面もあったが、その都度計画を見直しながら、子どもの問題意識を大切にした学習活動を展開してきた。そうすることで、「探究する」おもしろさを実感しながら探究課題の解決を図る子どもの姿が見られるようになってきた。一方で、単元構成については、子どもの実態を考慮した構成を絶えず考え続けるとともに、各教科等の内容項目や資質・能力のつながりを整理していく必要があることが分かってきた。

「『考えるための技法』を生かした学習活動の在り方」について

１年次は、思考ツールを活用させることで、情報処理の仕方を身に付けたり、整理した情報を基に考えをまとめたりすることができるようになった。２年次は、思考ツールに目を向けるだけでなく、各教科等で獲得し、活用してきた見方・考え方を、総合的な学習の時間と各教科等の学びで往還させることで、子どもが学びをつなげながら学習を行う姿が見られるようになってきた。一方で、子どもが「考えるための技法」を自在に発揮するところまでには至っていないといった課題も挙げられた。

そこで、過去２年間の研究の成果と課題を基に、本年度も上記の２つを研究の柱とし、研究を行うこととした。

研究内容

1　子どもが「学びをつなぐ」ための学習指導の在り方
⑴　「探究する」おもしろさを実感する単元構成の在り方
⑵　「考えるための技法」を効果的に活用した学習活動の在り方

研究内容の基本的な考え方

1　子どもが「学びをつなぐ」ための学習指導の在り方

⑴　「探究する」おもしろさを実感する単元構成の在り方（一昨年度からの継続研究）

総合的な学習の時間には、「課題の設定→情報の収集→情報の整理・分析→まとめ・表現」という探究のプロセスがある。この探究のプロセスが充実するような単元構成を行うことで、それぞれの学習活動において子どもが学びをつなぎながら、「探究する」おもしろさを実感することができるのではないだろうか。その実現のためには、総合的な学習の時間をカリキュラム・マネジメントの中核として捉え、各教科等の内容項目や資質・能力のつながりを整理することや、子どもの実態を踏まえた単元構成を行う必要がある。また、探究のプロセスを重視し、各教科等で育成する資質・能力を相互に関連付けていきながら、意図的・計画的な学習活動を設定することも大切である。

本年度は、各学年におけるこれまでの実践を基に、子どもの実態を考慮し、各教科等の内容項目や資質・能力のつながりを整理しながら、年間指導計画の見直しを行い、授業実践を行っていく。そのなかで、子どもが物事の本質を探り見極めようとするような探究課題を設定し、子どもが単元のゴールを見据えて、問いをつなげて探究することができる単元構成の在り方について究明していきたい。

総合的な学習の時間（わかたけの時間）でめざす「学びをつなぐ」姿

	これまでの学びを生かす姿	仲間の考えを生かす姿	日常生活とつなぐ姿
導入	【課題設定】 ○　事象から見いだしたずれ　○　「探究する課題」の設定　○　課題解決の見通し		
	○　事象について、各教科等や総合的な学習の時間で学習してきたこと、これまでに獲得してきた見方・考え方を基に意見を述べる姿 ★　事象について、捉えたことや意見を基に見いだしたずれから追究する問いを生み出し、「探究する課題」を設定する姿 ○　各教科等や総合的な学習の時間で学習してきたことを生かし、「探究する課題」に対する予想をもち、課題解決の見通しをもつ姿	★　事象について、自分と仲間の捉えたことや意見を比べた際のずれを基に追究する問いを生み出し、「探究する課題」を設定する姿	★　事象について、捉えたことと自分の日常生活とのずれから追究する問いを生み出し、「探究する課題」を設定する姿
展開	【情報の収集】 ○　資料（本やパンフレット、インターネット等）から得た情報　○　体験から得た情報 ○　人を介して得た情報（インタビュー等）		
	○　資料や人、体験から、各教科等や総合的な学習の時間で獲得してきた見方・考え方を基に必要な情報を集める姿	○　資料や人、体験から情報を集める際、仲間が獲得している見方・考え方を生かす姿	○　資料や人、体験から集めた情報と日常生活で体験したり考えたりしてきたことを関連付けながら自分の考えをもつ姿
	【情報の整理・分析】 ○　集めた情報　○　情報を基にした考え		
	★　事象について調べ、「探究する課題」を解決するために、「考えるための技法」を活用して集めた情報を整理・分析する姿 ★　整理・分析した情報を基に自分の考えをもつ姿	★　根拠を基に話し合うなかで、仲間の考えを基に「考えるための技法」を活用して多面的・多角的に情報を捉え、整理・分析する姿	★　根拠を基に話し合うなかで、日常生活から考えられることを基に「考えるための技法」を活用して多面的・多角的に情報を捉え、整理・分析する姿
終末	【まとめ・表現】 ○　「探究する課題」に対する自分の考え		
	○　探究的な学習をとおして獲得した見方・考え方を基に、「探究する課題」に対する自分の考えをまとめ・表現する姿 ○　新たな課題に気付き、問いを見いだす姿	○　仲間がまとめ・表現した「探究する課題」に対する考えと自分の考えとを比較してふりかえり、自分の考えを広げたり見直したりする姿	○　自分が考えたことを基に日常生活や社会に働きかけようとする姿 ○　総合的な学習の時間に獲得した見方・考え方を日常生活や各教科等に生かす姿

【探究的な学習における学びをつなぐ姿の明確化】

⑵　「考えるための技法」を効果的に活用した学習活動の在り方（一昨年度からの継続研究）

「考えるための技法」を活用することには、３つの意義があると考える。１つめは、探究のプロセスの「情報の整理・分析」の過程における、思考力、判断力、表現力等を育成することである。２つめは、協働的な学習を充実させることである。３つめは、子どもが、総合的な学習の時間や各教科等で身に付けた思考スキルを課題解決に向けて活用することである。

本年度は、この３つの意義を教師が再確認したうえで、子どもが「考えるための技法」を効果的に活用し、学びをつなぎながら探究的な学習に取り組むことができる学習活動の在り方について究明していく。研究内容⑴で見直しを図った年間指導計画や学習プランを基に、どのような「考えるための技法」をどのような目的で活用させていくのかを明確にし、意図的・計画的に学習活動を設定する。

研究の実際

1　子どもが「学びをつなぐ」ための学習指導の在り方

⑴　「探究する」おもしろさを実感する単元構成の在り方

第６学年の実践「わたしと宮崎～宮崎の魅力再発見～」では、過去２年間の実践と本年度の子どもの実態を踏まえ、以下のような年間指導計画の見直しを行い、単元を再構成して、実践を行った。その際、探究のプロセスを充実させる小単元を構成し、子どもの問いが次の小単元につながるようにした。

昨年度の反省	●　内容項目や資質・能力について、他教科等とのつながりを十分に見いだすことができなかった。 ●　パンフレット等を活用して宮崎の魅力発信を行うことができたが、それらを見た相手からのフィードバックを得ることができなかった。
子どもの実態	●　前学年の総合的な学習の時間において、探究のプロセスの一つである「まとめ・表現」の実践が不十分であったため、自分たちの学びを発信する経験ができていない。

単元のゴール：宮崎の活性化のために、宮崎の魅力を再発見し、その魅力を発信する。

探究課題Ⅰ
修学旅行先としての〇〇の魅力を調査！
・単元のゴールの設定
・鹿児島県の修学旅行プランの調査・分析

→ 修学旅行 →

探究課題Ⅱ
宮崎の魅力を再発見！
・修学旅行新聞の作成
・修学旅行先としての宮崎の魅力
・宮崎の観光調査・体験
・調査した宮崎の魅力のプレゼン

→ （学習発表会）フェスタ →

探究課題Ⅲ
宮崎の観光プランを立案！
・宮崎の観光プランの立案（県内、全国、海外に向けて）

→

探究課題Ⅳ
宮崎の魅力を発信！
・修学旅行先としての宮崎の魅力の PR（動画作成）

まとめ・表現の場の設定

個人で作成した新聞やプレゼン資料、学年でつくりあげた劇を授業や参観日、学習発表会で学級の仲間や保護者、下級生等の身近な相手に発信できる場を設定した。

様々な形で魅力を発信し、その相手からのフィードバックを得ることができるようにする。

昨年度の反省や子どもの実態を踏まえ、本年度は探究のプロセスを特に重視した。そのなかでも、各小単元において、子どもがまとめた学習の成果を学校行事等で様々な相手に発信する機会を設定するようにした。そうすることで、各教科等での学びを生かしながら、目的意識や相手意識をもって探究的な学習に取り組む姿が見られた。さらに、発信した相手からのフィードバックを得るようにしたことで、各小単元でのふりかえりにおいて、自分たちの学びを伝えることができた成就感や達成感を得たり、今後の探究への思いをもったりする姿も見られ、「探究する」おもしろさの実感へとつながった。

宮崎のそれぞれの魅力、自然や観光そして神話をストーリー風にしてわかりやすく発表することができました。まずは身近な保護者の方々、他の学年の人にも宮崎にはこんなにいいところがあるというのを知ってもらういい機会にもなったのかなと思います。
これからは、本来の目的である「県外の人に魅力を伝える」という活動をしたいです。グループで発信する対象の人を分けて発信していったらいいと思います。これまでに新聞記事でもかなりの宮崎の魅力を発見できたので、それも魅力発信に活かしていきたいです。

【探究課題Ⅱ　学習発表会で発表する様子と小単元のふりかえりの記述】

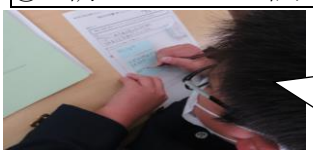
⑵　「考えるための技法」を効果的に活用した学習活動の在り方

①　第３学年「わたしと『竹』・『ささ』～『ささ』や『竹』のみりょくをもっと伝えよう～」の実践より

本実践では、小単元の「生み出す」段階において、自分たちが調べたいことについて整理することを目的として、協働的な学びを充実させるためにＫＪ法を用いた学習活動を行った。ただし、３年生はＫＪ法を初めて用いるため、全体でその手順を確認し、情報を整理する方法を全員が理解できるように留意した。

活用させたい考え方	整理・分析の方法
・比較する ・分類する ・関連付ける	①　調べたいことについて考え、付箋紙に記入する。 ②　グループで、考えを出し合い、似ている内容の付箋紙を近くに貼って仲間分けする。 ③　仲間分けしたものにタイトルを付け、まとめたことを全体で共有する。

①　調べたいことの記入



なぜ「ささ」が校章なのかな？附属小学校の歴史を調べてみたいな。

【子どもが KJ 法で分類した調べたいこと】

②③　ＫＪ法を用いた、調べたいことの話合い

「校章は誰がつくったのか」と「いつつくられたか」は似ているよね。

確かにそうだね。「歴史関係」でまとめてみたらどうかな。

ここは、「校歌」でまとめていいかな。

校長先生がつくったキャラクターのリーフちゃんについての内容も多いね。「リーフちゃんについて」とまとめるね。

情報整理の仕方を全体で確認し、グループで活動を行わせたことで、自分と仲間の考えを比較したり、分類したりし、仲間と協働しながら話し合うことができた。一方で、付箋紙に記入している内容に、事柄や方法等が混在しており、分類に苦戦する様子も見られた。そのため、情報整理前の子どもの実態を教師が把握し、レディネスを揃えたうえで活動させる必要がある。この反省を踏まえ、今後の各教科等の学習で情報整理をする際に、本小単元で身に付けた「考えるための技法」を活用できるようにしていきたい。

② 第５学年「わたしと食～佐土原ナスを育てよう～」の実践より

本実践においては、インタビューで分かったことをグループで整理・分析し、今後の栽培活動に必要な情報を明確にすることを目的とし、協働的に課題解決に向かうことができるように学習活動を展開した。

活用させたい考え方	整理・分析の方法
・比較する・関連付ける ・分類する・焦点化する	① 事前に記入した付箋紙を基に、インタビューをして分かったことを整理する。 ② 今後の栽培活動に必要な情報を分析し、全体で共有する。

① チャート等を用いた話合い

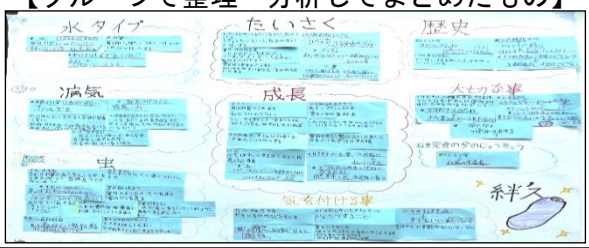
分かったことがたくさんあるね。ここに、「水」に関係するものを貼っていこう。

支柱を立てることや雑草を抜くことは、「対策」としてまとめたらどうかな。

②整理・分析したことの共有

整理したものを社会科で使ったピラミッドチャートにして考えると、「虫対策」が一番重要だと分かりました。

【グループで整理・分析してまとめたもの】



これまでに活用してきた「考えるための技法」や、それを可視化するための「思考ツール」を生かし、仲間と協働しながら、情報を整理・分析する姿が見られた。整理・分析の仕方や思考ツールを限定せず、子どもに考えさせたことで、子どもがこれまでの学びを生かし、試行錯誤しながら課題解決に向かうことができたのだと考える。一方で、時間内に多くの情報を整理するには、情報の取捨選択等の方法を全体で確認し、見通しをもって活動に取り組ませる必要があることも分かった。また、その後の国語科「問題を解決するために話し合おう」において、子どもが本実践で身に付けた「考えるための技法」を生かし、課題解決に向かう姿が見られた。「考えるための技法」を活用するよさに気付くふりかえりも見られた。総合的な学習の時間と各教科等との学びを往還しながら、学びをつなぐことができるようになってきたと考える。

総合的な学習の時間「わかたけ」	「わたしと食～佐土原ナスを育てよう～」 課題設定【見通す】 佐土原ナスづくり調査・実践【比較・分類・関連付け・焦点化】				
国語	筆者の伝えたいことをまとめよう⑥ （教材：動物たちが教えてくれる海の中の暮し） 漢字の成り立ち② 知りたいことを聞き出そう④	環境問題について報告しよう⑦ 山場で起こる変化について考えよう⑦ （教材：世界でいちばんやかましい村） 文の組み立てをとらえよう②	敬語の使い方②	問題を解決するために話し合おう⑤ 【比較・関連付け】	本は友達②
社会	世界の中の国土 【見通す】	国土の地形の特色と人々のくらし⑧ ※海辺の市	国土の気候の特色と人々のくらし⑦ ※陸別町	くらしを支える食料生産④ 米づくりのさかんな地域⑧【比較・関連付け】	
算数	体積⑨	比例⑦	小数のかけ算⑪	小数のわり算⑭	合同な図形⑪
理科	植物の発芽と成長⑭ 【比較・条件整理】	メダカのたんじょう⑧	ヒトのたんじょう⑦	台風と気象情報④	

【学習プランにおける「考えるための技法」のつながり（一部抜粋）】

ふりかえり
話し合う時に、ふせんしに意見を書いて、意見がちがうものを分けたり、同じような意見を重ねたりすると、何を話し合えばよいのか分かりやすくなった。

【その後の国語科学習での記述】

今年度の研究のまとめ

1 子どもが「学びをつなぐ」ための学習指導の在り方

⑴ 「探究する」おもしろさを実感する単元構成の在り方

○ これまでの実践を基に、各学年の子どもの実態を考慮し、探究のプロセスが充実するような単元構成を行うことで、「探究する」おもしろさを感じながら、課題解決に向けて学習する姿が見られた。

● 年間指導計画における「内容項目」や「資質・能力」のつながりの整理の仕方については、今後も検討していく必要がある。

⑵ 「考えるための技法」を効果的に活用した学習活動の在り方

○ 子どもの発達段階に応じて、「考えるための技法」を用いた学習活動を段階的に経験させていくことで、これまでに学んだ「考えるための技法」を生かして課題解決に向かう姿が見られるようになってきた。

● 子どもが身に付けてきた「考えるための技法」を整理し、次年度に引き継ぐことと、「考えるための技法」を効果的に活用できるような学習活動の計画を立てていく必要がある。

参考文献：考えるってこういうことか！「思考ツール」の授業　田村学・黒上晴夫　小学館　2013
今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開　文部科学省　2021